

# 強い意志と 目的意識ある 大学生生活を



関西大学学長 河田 悌一

関西大学の一員になられた新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。宋の著名な文学者であった蘇軾(号は東坡)は「春宵一刻値千金、花に清香あり月に陰(かげ)あり」と詠っていますが、陽春の候、創立120周年という記念すべき年に、みなさんを関西大学に迎えますことを、私は学長として心からうれしく思っています。

みなさんが大学生生活を送る21世紀初頭の現代は、いかなる時代なのでしょう。激動の時代、変化と個性の求められるモデルなき時代、といえるでしょう。と同時に、この現代は後世から振り返ってみて、歴史的にきわめて重要な時代であった、と評されるに違いありません。

日本そして世界が、ここ10数年來のIT化の驚異的發展とグローバル化の進展によって、大きく変化してきたからです。たとえば、IT化はみなさんが使っている携帯電話とコンピュータの普及によって、まさに身をもって体験していることでしょう。

そうした状況のもとで、今を生きる私たちは、大量の情報に振り回されることなく、正しい判断のできる目を養い、問題点を発見し、解決する能力を養成してゆかなければなりません。

では、どのようにしてそんな能力を獲得することができるのでしょうか。それには、まず発想の転換が必要です。断片的な知識を集める受動的な勉強を捨て去り、能動的な勉強、自発的な学び方をします。

もっと自由に、さまざまなことに疑問を抱き、問題点を見つけ、その解答を求める、という知的好奇心をもつことが、何にもまして大切です。哲学者のアリストテレスは、こう述べています。

すべての人間は、生まれつき、知ること欲する

だが知的好奇心をもち続けることは、容易ではありません。みなさん一人ひとりが、強い意志と目的意識をもって大学生生活を真剣に送らなければ、それを継続することはできません。

そのため、みなさんは親離れをして精神的に自立し、活力と良識をもった人になる必要があるのです。

大学時代にみなさんは、問い、調べ、考え、述べることを訓練するとともに、自分自身の生きる道を発見して欲しいのです。

そのためには、この4年間にいろいろな経験を積むことが重要です。ゼミ、クラブ活動やサークル活動、アルバイト、企業や官庁や学校などで一定期間の実習をするインターンシップ、教育実習など

……。それだけではありません。学生時代に多くの本を読み、友人と一緒に、またときには一人で、旅することも大事な経験です。関西大学に入学した新入生のみなさんが、意欲的に学び、さまざまな人と出会い、「将来いかに生きるか」を真剣に考えてくださることを、心から希望しています。

と同時に、多くの知的好奇心に溢れた、意欲ある新入生のみなさんが、関西大学で有意義な4年間をすごして知識と技術を獲得し、日本のみならず海外において、社会的貢献ができる人間に成長していけるよう、私は学長として最大限の応援をする所存です。

HEADLINE

- 8 面 新任教員紹介
- 7 面 会計専門職大学院を開設
- 4・5 面 新春風情から始めよう
- 3 面 新入生歓迎特別行事
- 2 面 関大生のメディア活動

私たちが、自然の美しさから喜びを得ることがある。春の日ざし、雪山が太陽を反射して輝いている様などから喜びを感じる。他方、私たちが他者からも喜びを得ることがある。ちょっとした思いやり、言葉などに喜びを見出す。また私たちは、自分の行為から充足感を得ることがある。苦勞して何事かを達成した時には喜びを感じる。さらに私たちは、物的なもの、例えば身の回りのお気に入りのグッズなどにも喜びを見出す。したがって、自然、他者、自己、モノ、すべてに関して満足できる状況があるということ。これは、喜ばしいことにちがいない。しかしながら私たちが、あることに不満足であり、何かが欠けているという感じをもつ時、それを解消することへの渴望をいだき始めることがある。そして、その欠如を解消することに生きがいを感じ始める。ちなみに、英語のwantという言葉には、欲するという意味が、欠けているという意味がある。欠けたものが何であるのかを見つめ直し、その欠如を埋めるよう努力すること。この中にも喜びがあるのではないか。(廣田 俊郎)





マスコミ研究部の

新生活先取りガイド

# 凜風館から始めよう

3月1日、「学生たちのコミュニケーション広場の創出」を基本コンセプトとして、千里山キャンパスの真ん中にオープンした総合学生会館「メディアパーク凜風館」。各フロアには、これまではなかった設備やサービスが盛りだくさん。そして、その裏側には環境への配慮もしっかり考えられている。今回の特集では、マスコミ研究部(出版パート)のみなさんに学生の代表として、凜風館の見どころを余すところなく紹介してもらった。



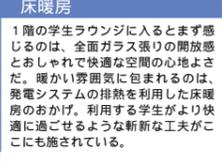
**1F**



**大型モニター**  
トリノオリンピックに出場した高橋大輔選手(文学部3年次生)の応援会が行われたこのホール。中央に設置された大型モニターには高橋選手の華麗な演技が映し出され、学生・教職員と報道陣であふれかえった会場は大きな声援にわいた。



**学生ラウンジ**  
オブジェのようなおしゃれな椅子も多数配置されているので、このオープンスペースを友達との待ち合わせに利用したり、授業の空き時間をぼんやりと過ごしたりと、大いに活用できそう。学生生活課やボランティアセンターが移設されたことで、課外活動エリアに近くなり、何かと便利になった。



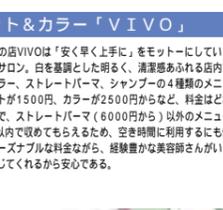
**床暖房**  
1階の学生ラウンジに入るとまず感じるのは、全面ガラス張りの開放感とおしゃれな快適な心地よさだ。暖かい雰囲気にも包まれるのは、発電システムの排熱を利用した床暖房のおかげ。利用する学生がより快適に過ごせるような斬新な工夫がここにも施されている。



**LAN環境**  
学生ラウンジの柱やカウンターテーブルには、情報コンセントと電源が全部で216セット組み込まれている。無線LANも設置されているので、館内で最大1000人が同時にインターネットを利用できる。ノートパソコンを設置してもらえたらいいのだが、防犯上の問題があって難しいだろう。



**カット&カラー「VIVO」**  
カット&カラーの店VIVOは「安く早く上手に」をモットーにしているおしゃれなヘアサロン。白を基調とした明るく、清潔感のある店内では、カット、カラー、ストレートパーマ、シャンプーの4種類のメニューがある。カットが1500円、カラーが2500円からなど、料金はどれもリーズナブルで、ストレートパーマ(6000円)以外のメニューは全て1時間以内で取ってもらえるため、空き時間に利用するにも便利。また、リーズナブルな料金ながら、経験豊富な美容師さんがいるような要望に応じてくれるから安心。

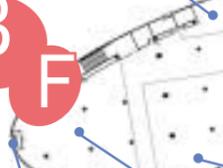


**ボディーケア「B.L.A.I.R」**  
ボディーケアの店B.L.A.I.Rは、ネイルアートおよび最新式マサージ機によるリラクゼーションサービスとボディーケア用品の販売を行っている。メニューは大きく分けてNAIL、FOOT、BODY、FACE&HAIRの4種類で、料金はどれもリーズナブルだが、高い技術を持つスタッフによって丁寧なサービスが受けられる。ネイルアートは、ペイントはもちろんのこと、ラインストーンや3Dなどの凝ったデザインもOK。特におすすめなのは、珍しいパフィンバック(1050円)から、ビタミンやコラーゲンがたっぷり含まれたパラフィンに手を浸すバックで、美白と潤い効果がある。



**セルフエステ**  
セルフエステでは、女性に大人気のホームエステ商品が30分使いたい放題。セルフエステといっても、スタッフがきちんとカウンセリングを行い、その人の肌や髪の悩みにあった美容器具を紹介し、使い方も丁寧にアドバイスしてくれる。FOOTメニュー以外すべて男性も利用することができる。

**3F**



**書籍・教科書コーナー**  
書籍・教科書売場では、大学生活に欠かせない教科書や書籍が約6万冊取り揃えられ、定価よりも10%近い割引価格で販売されている。ただし、割引の特典が受けられるのは、生協の会員に限定されるのは言うまでもない。



**物販コーナー**  
中心に位置する物販コーナーには、日常必需品の文具から、パソコン等の電子機器、さらにはインターネット、パソコン相談コーナーやメガネショップなどの販売スペースもあり、より充実したサービスが提供される。



**相談・申し込みカウンター**  
相談・申し込みカウンターでは、旅行、免許、講座、部屋探し、引越し、証明写真、レンタル、名刺印刷、入学・卒業アルバム、生協加入手続きなど、さまざまな要件に応じてもらえる。

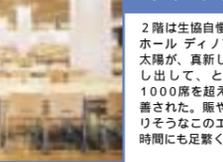
**2F**



**ラーメン・カレー専門コーナー**  
レストランではランチセットからアラカルトまで、約100種類もの多彩なメニューが用意されている。4月からは新メニューも登場することです。楽しみ。単独で設けられたラーメンとカレーのブースでは、以前と変わらぬ良心的な価格で、専門店の味覚を味わうことができる。



**レストラン「ダイニングホール ディノア」**  
2階は生協自営のレストラン「ダイニングホール ディノア」。吹き抜けの窓から注ぐ太陽が、真新しい木目調のテーブルを照らし出して、とても気持ちいい。席数は1000席を超え、旧館にあった手狭さも改善された。賑やかで活気あふれる空間になりそうなこのエリアには、お昼休み以外の時間にも足繁く通うことになるだろう。



**可動式パーテーション**  
厨房とレストランの間にはスクリーンとしても使える、可動式のパーテーションが仕掛けられており、3台のプロジェクターで映写できるという便利なもの。厨房部分が隠れるので、食堂としてだけでなく、いろいろなイベントに使うことができ大変便利だ。うまく設計したものだと感じてしまう。

**4F**



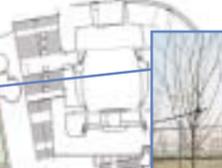
**ミーティングルーム**  
4階は主に学生たちの課外活動用施設として、ミーティングルーム、小ホール、和室などがある。最大300人収容できるミーティングルームは、クラブやサークルの集会にもってこいである。映像機器が完備されているので、自作の映像や映画の鑑賞などにも利用できる。小ホールは音響、照明機器が充実している。舞台もあり、最大120人が収容できるので、音楽や演劇の公演も可能。和室は主に茶道、書道、邦楽、能楽、落語など日本の伝統文化に関する団体が利用できる。



**テラス**  
4階からはテラスへ出ることができる。優れたときはこのテラスのウッドデッキに立ち、深呼吸をしてみよう。気持ちがいいリフレッシュされること請合いである。



**屋上庭園「桜の園」**  
凜風館のおすすめは、館内の充実した店舗や施設だけではなく、屋上に上がれば、とめどない青空と都会らしからぬ空気を身近なものに感じられる空間に出会うことができる。ここで、語り合うもよし、昼寝するもよし、それぞれの目的に応じた空間を提供してくれる。ここでは、大阪・梅田まで展望でき、夜には星間とは一味違う景色が楽しめる。



**四季の草木**  
屋上庭園では、創立120周年にちなんで植えられた120本の桜の木のほかに、四季折々の草木が四季を通じて彩りを添える。しかも木々との庭園は、大面積の屋根を全面的に緑化することにより、夏場のヒートアイランド現象の抑制にも役立っているというのだから驚きである。ちなみに、屋上庭園の盛り土は平均35cmの深さだそう、特別な軽量土壌が使われているらしい。

## 地球にやさしい建物

### ～凜風館快適空間の秘策～

**ソーラーフェンス**  
太陽光パネルを4階外部フェンス部分に設置。「ソーラーフェンス」と名付けられたこの屋上フェンスは、約20kWの発電能力を有している。自然の恵みを無駄にすることなく、エネルギーとして役立てている。

**風力発電システム**  
工学部の安田陽助教が設計した、小型垂直軸風車(サブウインドシステム)を屋上に9台設置。風車のイメージとは違い形状だが、低風速の場合でも効率的に発電できるという点が最大のセールスポイントだ。

**コージェネレーションシステム**  
コージェネレーション設備による発電により、電力負荷の低減を図るとともに、そのガスエンジンの排熱を学生ラウンジの床暖房や、館内の冷暖房、厨房の給湯などに有効利用。尚文館に設置されているシステムよりも、かなりパワーアップしている。

**Low-E複層ガラス**  
大きな開口部には、断熱性・遮熱性に優れたLow-E複層ガラスを採用。紫外線・赤外線反射吸収コーティング剤「アレイガ」を塗布することで、空調負担の低減も図っている。

**井水・雨水利用システム**  
深さ200mの井戸からくみ上げた地下水を処理したうえで、キャンパス全体の飲用水として利用。また、屋上に降った雨水を集水して、植栽の散水にも使われている。

**生ごみ処理システム**  
2階の食堂から出る生ごみを減量・リサイクルするシステムを導入。1回に100kg/台の処理が可能で、毎日発生する生ごみに対応する。

**E C Oディスプレイ**  
2階の食堂エントランスに設置されている。凜風館で採用している環境配慮技術のシステムフロアとエネルギーデータが表示されていて、どれだけの電力が作られているかリアルタイムで目にする事ができる。

## 関連トピックス

### KUシンフォニーホールにリニューアル

本紙第331号第8面で既報のとおり、凜風館の建設と合わせて誠之館4号館「特別講堂」の改修工事が行われ、4月1日に「KUシンフォニーホール」としてリニューアルオープンした。観客のアメニティ機能を向上させるために、空調設備を完備したほか、座席数を450から362に減らし、座席のサイズおよび隣席とのスペースを拡張している。音響・照明の設備は、出演者のパフォーマンスを最大限に演出するため、大幅にその機能を向上させた。また、映写設備は、ビデオやDVD、プロジェクターなどの最新機器が配置されている。なお、4月18日(火)から、このホールのお披露目を兼ねて、文化会各部による「文化フェスティバル」の一部が行われる。詳細は本号6面を参照のこと。

### 以文館にレストラン「法文坂」がオープン

3月9日に竣工した以文館1階に学生、教職員用の食堂がオープンした。ここは法文食堂「一休」の閉店に伴いオープンされたもので、280席を有する食堂では、女子学生を意識した豊富なメニューを取り揃えている。凜風館と同様に、食堂ホールは厨房部分のシャッターを閉めることで、各種イベント会場としても利用できる。

### コンビニ「Qeat」がオープン

これまで学内数箇所にあったコンビニの店名を「Qeat(キューイト)」と統一して、リニューアルおよび新規オープンした。「Qeat本部店」(第4学舎1号館ピロティ一部)、Qeat以文館店(以文館1階)、Qeat経商店(第2学舎2号館1階)、Qeat社会店(第3学舎1号館1階)、Qeat体育館店(中央体育館横)の5店がある(経商店、社会店、体育館店は4月3日から)。パン、飲み物などの軽食をはじめ、昼食時にはワゴンでの弁当販売もしている。

### 誠之館1号館を取り壊し

凜風館の竣工に伴い、これまで関西大学生生活協同組合の各種施設が入っていた誠之館1号館は、取り壊されることが決定している。なお、教科書販売は5月12日まで、誠之館1号館オレンジルームにて行われる。

### 経商カフェテリアと「クークーハウス」が閉店

第2学舎1号館1階の経商カフェテリアと新関西大学会館3階「クークーハウス」が閉店され、カフェテリアは今年の秋学期から教務センター(本紙第331号第2面参照)へとりリニューアルする予定である。

## 2階・3階の愛称決まる



凜風館の2階・3階部分の愛称は、在学生から募集し、応募総数延べ約2000点の中から厳選のうえ決定した。2階のレストランの愛称「ダイニングホール ディノア」は、増原史子さん(本年3月社会学部卒)によって名付けられたもの。「ディノア」は「ダイニング・ノア」を略したもので、凜風館がノアの箱舟をイメージさせる形状であることから命名された。

3階フロアの愛称「生活応援プラザ カリオン」は、近藤洋平さん(経済学部2年次生)が名付け親。「学生にトータルでサービスを提供する場」という意味を込めた「生活応援プラザ」に、凜風館のシンボル「カリオン」を合体させたネーミングとのことである。なお、最優秀賞に輝いた2人は、3月1日に開催された「関西大学生生活協同組合・凜風館新店舗披露パーティー」の席上で表彰を受けた。

## マスコミ研究部紹介



マスコミ研究部は映像、広告、出版、夕刊の4つのパートに分かれて活動している。今回の特集の企画・編集に携わったのは出版パート。主な活動はフリーペーパーの作成で、今年は学園祭用の冊子を作りたいと思っている。

その他のパートの主な活動  
映像パート:自分たちで映像を撮影、編集して作品を作る。  
広告パート:キャッチコピー等のあらゆる広告をつくる。  
夕刊パート:ディベートを行ったり、コラムを書く。  
総勢約60人、刺激しながら、よりよいものをめざして頑張っている。

# 4月 新入生歓迎プログラム

## 1.3.4日 "Powerful Kan-Dai Life!"

### 楽しい学生生活はあなた自身で

新入生のみならず、入学するのだから、新しい Kan-Dai を四月一日、三日を迎えたいと思う。期する疑問をもつ人も、一日、四日に開催する。本学では、みなさんのそのような疑問に答え、スムーズな大学生活のスタートを応援するために、新入生歓迎プログラム「Powerful Kan-Dai Life」(略してパワ)を企画している。このプログラムは、新入生が大学生活をスタートするにあたって、新入生が抱える疑問や不安を解消し、大学生活をスムーズにスタートさせるためのプログラムである。新入生が抱える疑問や不安を解消し、大学生活をスムーズにスタートさせるためのプログラムである。新入生が抱える疑問や不安を解消し、大学生活をスムーズにスタートさせるためのプログラムである。

### 学生サービスのご紹介、学生による課外活動のご紹介「クラブ・サークルに入ろう！」プログラム

時間	プログラム	時間	プログラム
4月1日(土) 12:00~16:00 (場所) 凧風館1階 学生ラウンジ		4月4日(火) 11:00~17:00 (場所) 凧風館1階 学生ラウンジ	
11:00	—	11:00	学術研究会
12:00	文化会	11:30	ボランティア
12:30	12:30~13:30 (各部署10分) 学生生活課 キャリアセンター 国際交流センター ボランティアセンター スポーツ振興課	12:00	文化会
13:00	—	12:30	体育会本部
13:30	学術研究会	13:00	13:00~14:00 (各部署10分) 学生生活課 キャリアセンター 国際交流センター ボランティアセンター スポーツ振興課
14:00	体育会	14:00	学術研究会
14:30	ボランティア	14:30	応援団
15:00	体育会	15:00	体育会
15:30	応援団	15:30	ボランティア
16:00	—	16:00	文化会
17:00	—	17:00	応援団

関西大学図書館が大阪ミナミにある大丸百貨店南館七階で、おおさか文芸書画展を開催したのは平成六年九月である。図書館が「大阪文芸コレクション」として収集してきた大阪文芸に

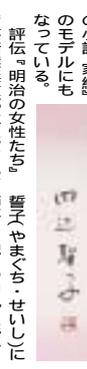
てい、その後、日本近代文学会関西支部編集の「大阪近代文学事典(和泉書院)が刊行され、また、近年「大阪近代文学作品選」が出版されることになった。この「大阪近代文学作品選」は、自由奔放に青春の情熱と人間賛歌を歌いあ

### 大阪にゆかりのある 女流作家らにスポット

特別展「大阪の女流文学」

も大阪近代文学研究の礎ができてきた。今回の春季特別展では、「大阪の女流文学」と題して、大阪に生まれ育った、あるいは大阪にゆかりのある作家の作品を展示している。

「つゆこ」である。露子も



「つゆこ」である。露子も

作家である。今展示が、些かでも日本

### 21st文化フェスティバル

今年も恒例の文化フェスティバルが四月十八日(火)から五月一日(火)の期間中、昼休みを中心に開催される。

第一部文化会に所属している団体が一堂に会し、本学の文化芸術活動の担い手としての文化会内外との結束を図り、文化会内外それぞれの日常の活動成果をアピールすることを目的に繰り広げられる一大イベントだ。

生れ変わったKUNING オールホールの公演で、きたはかりの凧風館での公演。展示、キャンパス内各所での展示等、団体ごとに趣向を凝らした発表がある。文化会全体の統一企画として、第一部文化会に所属している団体が一堂に会し、本学の文化芸術活動の担い手としての文化会内外との結束を図り、文化会内外それぞれの日常の活動成果をアピールすることを目的に繰り広げられる一大イベントだ。

四月一日から交換派遣留学生在籍募集(韓国、台湾、マシコ、エクアドル、オーストラリア)を開始する。また、この春集を認める。また、この春集を認める。また、この春集を認める。

### スタンドで声援をおくろ

野球部(関西学生野球六大学春季リーグ戦)

日	時	対戦相手	場所
4月1日(土)	13:30	京都大学	西京極球場
4月2日(日)	11:00	同志社大学	西京極球場
4月8日(土)	13:30	同志社大学	西京極球場
4月9日(日)	11:00	同志社大学	西京極球場
4月21日(金)	10:00	近畿大学	南港中央球場
4月22日(土)	12:30	近畿大学	南港中央球場
4月27日(木)	13:30	立命館大学	西京極球場
4月28日(金)	11:00	立命館大学	西京極球場
5月12日(金)	12:30	関西学院大学	甲子園球場
5月13日(土)	12:30	関西学院大学	甲子園球場

### サポーターとして応援に行こう

サッカー部(関西学生サッカー春季リーグ戦)

日	時	対戦相手	場所
4月2日(日)	12:00	びわこ成蹊スポーツ大学	長居スタジアム
4月8日(土)	14:20	同志社大学	西京極総合運動公園(補助競技場)
4月15日(土)	14:20	大阪体育大学	高槻萩谷総合公園サッカー場
4月16日(日)	12:00	桃山学院大学	高槻総合スポーツセンター
4月23日(日)	14:20	大阪学院大学	長居第2陸上競技場
4月30日(日)	12:00	関西学院大学	長居第2陸上競技場
5月3日(水)	14:20	阪南大学	明石公園陸上競技場
5月7日(日)	12:00	近畿大学	高槻総合スポーツセンター
5月13日(土)	14:20	立命館大学	高槻総合スポーツセンター

### 課外活動行事予定(4月1日~5月15日)

- 将棋部 個人戦 4/23(日)・30(日)・5/14(日) 大阪市立大学
- 茶道部 スプリングフェスティバル 4/2(日)10:00 本学 総合図書館裏 芝生広場
- 写真部 写真展 4/5(水)・4/9(日) 本学 凧風館1階学生ラウンジ
- マンドリン倶楽部 第36回大阪学生マンドリン連盟合同演奏会 4/9(日)17:00 大阪厚生年金会館大ホール
- 演劇研究部「学園座」 新入生歓迎公演 4/21(金)~23(日)13:00

### 新刊の扉

- 法学部教授 李忠延 著 『インテリの憲法』 21世紀文庫 定価一千四百円(税込)

### 人権問題の冊子を配布

人権問題の冊子を配布。冊子には、人権問題に関する基本的な知識や、学生生活における人権問題の事例などが紹介されています。ぜひ読んでいただき、人権問題について理解を深め、行動を起こすきっかけとしてほしいです。

### 平成19年度 交換派遣留学生の春募集

平成19年度 交換派遣留学生の春募集。募集期間は4月1日から5月15日までです。興味のある方は、お申し込みください。



関大通信 第334号

平成18年(2006年)4月1日  
大阪府吹田市山手町3 3 35  
http://www.kansai-u.ac.jp/  
次号は5月17日発行の予定です

とれたて情報発信中

関大生のメディア活動

関大スポーツ編集局では、体育会四十五部の活躍取材し、年六回体育会機関紙「カンスポ」を作成、発行している。アメフト、野球、ラグビー... 普段は戦いの熱気が少ない大学スポーツ。その戦いの熱気、興奮をより多くの人に伝える、活躍を知ってもらいたい。それが私たち関大スポーツ編集局の役目である。やることはプロの記者と同じである。試合を見て、活躍した選手にインタビューに行く。もちろん注目競技であればプロの記者、カメラマンと肩を並べ取材活動を行う。そして自分の目で見た試合の様子、インタビューの内容、これまでの試合のデータなどあらゆる材料を使い、一つの記事に仕上げる。新聞掲載の記事には一週間もの時間を費やす。だからこそ記事には自信を持っているのである。最近の本学体育会の活躍は目覚ましい。世界に活躍の舞台を広げる選手も増えた。そんな中、私たちの取材活動も日本全国はもろもろ、世界に広がっている。二月に行われたトリノオリンピックでは、高橋大輔選手の密着取材のためイタリア・トリノに行く機会が与えられた。関大スポーツの役割、活動はさらに広がるだろう。このような活動に興味がある人はぜひ関大スポーツに入り、大学スポーツの記者になってもう一回、大学として新入生には「カンスポ」を手にとってみてほしい。きつと新たなスポーツとの出会いがあると思う。

(商学部三年次生 西口 晃生)

戦いの熱気、興奮をお届けします!



● 関大スポーツ編集局

楽しくなければ意味がない



● 関大タイムス

関大タイムス <http://www.unn-news.com/ku-times/> は主に関大生の活躍を追いかける「報道」を中心に、年七回の新聞発行と、インターネットでの情報発信が主な活動。取材の対象は「大学生」に限らず、関係者も含まれる。スポーツを追いかけてもいいし、演劇や演奏会に行ってもいい。世界に誇れるような研究をしている教授から話を聞くこともできる。関大の学生として、どんな音楽が好きなのかな、と思ったアンケートをとってみよう。つまりは、何をやってもいいということ。自分が面白いと思ったことを伝えることが目的だ。この自由さは他にはない関大タイムスの魅力。楽しくなければ意味がない。をモットーに活動している。また、関大タイムスはUNN関西学生報道連盟に加盟しており、この連盟を基盤に、関関同立はもちろん、京都大学や神戸女学院大学など、関西の十一大学と一緒に活動中だ。各大学と情報交換をすることで、共同取材をすることも多い。その中で大学を超えた友人ができるのも魅力だ。取材以外にも、昨年は女子アナを招いてのフォーラムを開催。このフォーラムも連盟と一丸となって企画、運営して大成功を収めた。先輩の企画、新聞社や放送といったマスコミ系企業に就職した人もいるので、就職活動にも有利なのは間違いない。この記事を読んで、私たちの活動に興味を持った人は、タイムスのウェブサイトに <http://www.unn-news.com/ku-times/> (社会学部三年次生 大島 真美)



● KBC関西大学放送研究会

個性を生かして心地いい音作り



われわれKBC関西大学放送研究会は、毎日昼休みに、関大生に向けての音楽番組を制作・放送したり、そのほか音声にかかわるさまざまな活動を行っている。クイズ部・ミニサーブ・アナウンサー部に所属する。各部門は互いに協力し合い、日々制作活動を行っている。われわれの活動は、常に団体戦である。ディレクターは番組の骨組みを作り上げる。アナウンサーは番組の個性をより深める。そして、ミニサーブの手でスピーディに届けられるのである。少しでも足きりしてしまう、一見味に見えないような活動でも、すべてが番組の完成に大きくかかわっている。学生生活に欠かさないであろう団結力。そして達成感がここにはある。ここに集まる人びとはみな個性的だ。それぞれの個性によって互いを刺激しあっている。活動を通じて、この個性こそが、KBCにとって欠かさないものである。私たちより高めたいものなや、個性的な人間たちが作った番組は、個性的なものである。きつと毎日放送する番組の中で、あなたのお気に入りの番組に選ばれる。新入生のおみなさん、お昼ご飯を食べながら友達と楽しく昼休みを送っているとき、耳を傾けてみてほしい。いつも「気持ちいい昼休み」という気持ちで作り上げる。私たちの音がそこにはある。(文学部三年次生 東元加奈枝)

DJ番組や生番組で自分の腕試し



● KTB関西大学高槻放送局

私たちKTB関西大学高槻放送局は名前の通り、高槻キャンパスで活動している放送サークルである。キャンパス内では昼休みの学内放送を行っている。もちろん活動はそれだけではなく、音声や映像の番組制作、放送に関するさまざまな活動も行っている。サークル内にはアナウンサー班と技術班があり、互いに協力しながら作品を作っている。私たちには一年に二つ大きなイベントがある。一つ目はキャンパス祭である。高槻キャンパスでは五月にキャンパス祭があり、私たちのサークルはステージ企画にDJ番組で参加している。新入社員も積極的に参加して、サークルの雰囲気にも早く慣れることができると思う。二つ目は放送祭といってその年の集大成ともいえるイベントで、他大学の放送団体を招待して自分たちの作品を発表する場である。活動を通じて学んだ技術を使い、全局員が協力して作品制作をする。そのなかで毎年続いている目玉企画の一つに、二年次生が担当する報道番組がある。本番は生放送なので当日の早朝に担当員が集まり、新聞を目を通しその日のニュース原稿や資料を作る。スタッフのみが呼吸を合わせて生番組を作るのは大変だが、いい経験ができると思う。しゃべること、音楽、映画、興味がある分野が通っても何かを作りたいという気持ちが同じならきつと良いモノが作れる。自分の趣味に走っても、コンテストに向けて制作してもいい。KTBではやる気があれば何でもできる。(総合情報学部三年次生 喜本 竜文)



▶ 編集後記 ◀

バタフライは泳ぎから生まれた泳法であることと知らない人も多いのではないか。ある選手が、カエル泳法をまき水上で腕を返す泳法を組み出したのは、一九三三年のことである。当時の平泳ぎ規則の裏をかくこの泳法は、従来の平泳ぎに比べて、泳者の泳ぎにこだわる人びとの抵抗もあつたらしい。実際日本でも、子供がこの新泳法を泳ぐことを一時期禁止している。それにもかかわらず新泳法は少しずつ広がり、地位を確立していった。そしてドルフィンキックとの組合せにより、美しい躍動感のある、現在のバタフライへ進化を遂げた。規制をかいぐる工夫とそれに対する批判。これはどこかの国の金融市場と似てはいないか。無論、潜水泳法のように、規則で禁止されることが妥当な「工夫」もあったことは、忘れてはならないが。(本西 泰三)